

第8回エクセレントNPO大賞 「コロナ対応チャレンジ賞」講評

1. コロナ対応チャレンジ賞とは

コロナ対応チャレンジ賞は、新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、コロナ禍に直面しても必死に活動を続ける皆さんの姿を思い浮かべ、ぜひ応援したいという思いから創設しました。また、皆さんがこの困難をどのように克服しようとしているのかについて、お聞かせいただき、これを広く共有したいとも考えました。

評価の基準は、エクセレントNPO基準をベースに「何をしているのか」という点を中心に作りしました。項目は通常の3分の1に絞りました。

募集の結果は、新規の団体が8割に達し、より多様な活動分野からの応募をいただきました。得点率は66%となりましたので、基準の難易度としても穏当なところだったのではないかと思います。

2. ノミネート団体について

今回、最終審査にノミネートされた3団体は、いずれも課題認識が明確で、限られた時間の中で、何をすべきかを定め、その結果を具体的に記録し、説明しています。団体ごとにその特徴および評価された点について説明します。

①「エイズ孤児支援 NGO・PLAS」

エイズ孤児支援 NGO・PLAS は、2005年に学生たちによって設立された団体です。

コロナ禍はケニアやウガンダにも深刻な影響を及ぼしました。物価が高騰し食料を得ることができず、貧困家庭は栄養失調や餓死の危機に直面しました。そのような状況下で、PLASはこれまで培ってきた活動の蓄積をフルに生かしました。

重点を置いて育成してきた現地のパートナー団体が真価を発揮しました。渡航ができなくても、一早く、緊急支援活動を展開することができました。これまでの活動実績によって現地行政当局の信頼を得ていたことから、ロックダウンにより移動が制限される中でも、通行証を得ることができました。

また、PLAS 東京事務所は2010年より ICT を活用したリモートワークを段階的に実施してきた経験がコロナ下で力になりました。職員全員を在宅勤務体制に切り替えることがスムーズに進められました。

モニタリング体制も整えています。いつ、どこで、誰に対して、どのくらいの時間をかけて支援を完了することができたのかについて、詳細に記録しています。それらを分析す

ることによって、自らの強みと課題が明らかになるようにしています。その分析結果は、次の活動にも生かされることでしょう。

②「名古屋外国人共生支援協会」

名古屋外国人共生支援協会は2019年5月に設立された若い団体です。在日外国人のための交流会や相談会を開催していましたが、コロナ禍で外国人の雇用情勢が悪化する中、これまで縁のなかった外国人労働者からの声が届くようになりました。

支援といっても初めてのことばかりでしたが、地域で同種の活動をしているNPO関係者から助言が得られ、より効率的に運営することができました。また、地元外国語大学の学生の協力を得て、30世帯73人の外国人に食料を届けました。

支援協会の機動力は目を見張るものがありました。また、民間非営利活動にとって、ネットワーク力は大事な条件のひとつですが、他のNPOの力を借りることによって単独では容易にできないことを実現できたことも高く評価できます。地域の人々や学生を巻き込んだことも、活動の助けになっただけでなく、外国人労働者の問題を地域の人々と共有するという点で大事なことだったと思います。

設立間もなく、蓄積が少ない団体でも、人々を巻き込み、ネットワーク力によって、より大きな力を発揮することを示す好例となりました。

③「プラチナ美容塾」

プラチナ美容塾は、美容分野に従事された退職者が活動する団体です。創設以来、高齢者施設を対象にメイク教室などのイベントを実施してきました。ところが、コロナ禍によって、高齢者施設は外部との接触を制限され、イベントを続けることが不可能になりました。

活動休止という選択肢もあったかもしれませんが、しかし、そこで諦めることなく、高齢者施設に電話をかけ、施設のニーズを調べました。施設に負荷をかけずに出来る活動を模索し、オンライン・イベントを実施しました。メンバーの多くがオンラインに慣れておらず、操作を一つずつマスターしながら進めました。

コロナ禍にあっても活動を諦めず、しかも、アクションに移る前にまずニーズを把握するという冷静な姿勢は、対象者の事情に配慮するという点で評価できます。また、活動後に再び施設にニーズを尋ねるようにしており、ここから新たな現場の状況や課題を発見し、問題意識を深めることにつながっています。

人生100年時代が到来しようとしています。シニアによるボランティア活動はますます重要になっていますが、未だ途上段階です。プラチナ美容塾のような好例が増えて欲しいと思います。

3. コロナ対応チャレンジ賞

コロナ対応チャレンジ賞は「エイズ孤児支援 NGO・PLAS」です。PLAS は、エクセレント NPO 大賞にも何度もノミネートされたことがありますが、今回は、コロナ対応チャレンジ賞に応募されました。

自己評価書を拝見し、なぜ、コロナ対応チャレンジ賞に応募されたのかその理由がわかりました。コロナ禍の中、遠く離れたアフリカの地で顕著な結果を出されていたからです。以前より進めてきたリモート勤務や現地パートナーの育成が、コロナ禍による様々な制限や問題を乗り越える力に結びつきました。また、活動の進捗をモニタリングすることで普段の見直しが行われ、素早い改善につながっています。コロナ禍によって世界中が閉塞感に見舞われる中で、国外の人々に目を向け、手を差し伸べる姿は、私たちに大事なことを教えてくれています。